



はがきでペン優秀作品

えだから雪がおち
ておかしかったね。
みんなが雪だるま
になっちゃった。
小二 桜井 あいり

小2 桜井 あいり

行がきれいで線がつよくしっかりとしている。

しずりという言葉をし
俳句に使ったら先生
にほめられました。
お祖母ちゃんのお教
え、頭に入っているよ。
中一 番場 琴葉

中1 番場 琴葉

一文字ずつの形が上手に整い、全体も美しい。

佳作以上に「書作名人筆」さしあげます

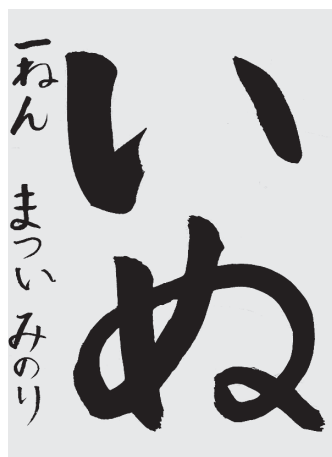
審査担当

金子榮風先生



石井あゆみ 幼年 7級

「いぬ」もなまなまもおおきくてりつぱ。せんのかくどやながさをよくみてるので、いきおいがありながらもかたちがきれい。



松井美遥 小1 準初

「い」をふとくかくことで「ぬ」とのバランスがとれてうつくしい。ハネやまわるところなど、ふでづかいがよくできている。



福原聖菜 小2 2級

つぎの画へのつながりを大切にしながらさいしよからさいごまでリズムよく書いていく中で、四文字とも形がととのった。



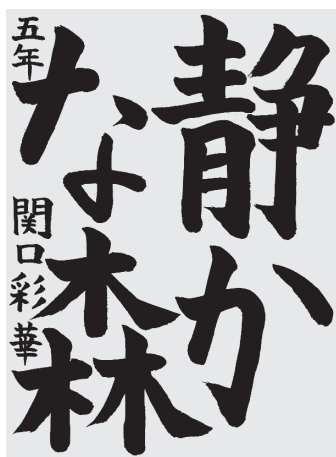
渡辺あや 小3 2級

一画ずつお手本を見て、よく考えながら、いねいに線を引き、美しい文字を書けた。とくに長い横の線とハライがきれい。



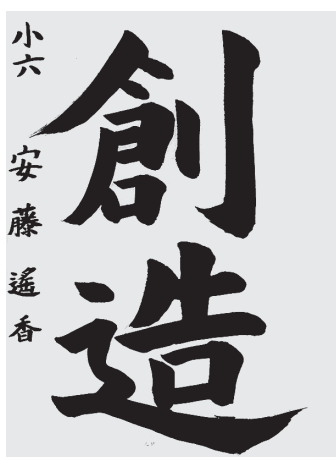
長田夏帆 小4 初段

まさに「天地」の大きさを表したようなのびやかさがすばらしい。「地」の全ての線の位置、長さ、角度が正しく、感動した。



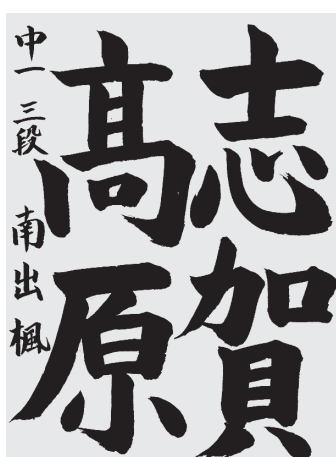
関口彩華 小5 3段

画数が多く苦労したと思うが、線と線のぶつかりもなくきれいに書けた。せまい空間の中でもハライやハネがとても上手。



安藤遙香 小6 4段

「創」の最後の縦の線、「造」のしんによろがバツグン。線の太細を上手く使い分けながら各文字の最終画が見事に決まった。



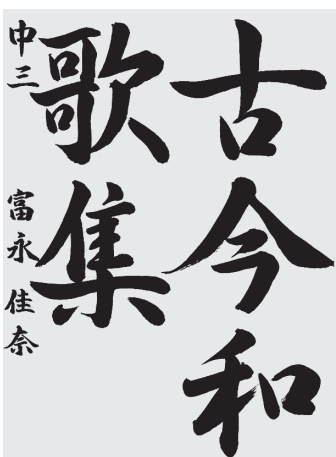
南出 楓 中1 3段

上下左右のバランスを取るのが難しい四字だが、よく考えて書いて全て安定させた。各文字にある太い線が効いている。



加藤有稀 中2 5段

筆の浮沈が上手で、行書を楽しみながら書いている印象を受ける。勢いがあるので沈んだ太い線が重くならないが良い。



富永佳奈 中3 準6

線を集める所と、のびやかな線を用いて疎密を上手く表現した。半紙全体に、文字の中に、共に余白が広がり美しい作品。

二月十五日締め切り

最優秀作品

金子高遠選評

